
風邪

寿々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風邪

【著者名】

寿々

【ISBN】

28684A

【あらすじ】

題名どおり、日番谷くんが風邪をひいた話。

(前書き)

この小説には男×男でキスシーンがあります
(そんなたいしたもんじやないけど)
苦情を押し付けられても困るので
苦手な方は絶対に見ないでください。

「ケホッ・・・・。」「ホッ・・・」

「隊長? 風邪ですか?」

今日は大事な会議があるのに・・・

田番谷は風邪をひいてしまった。

「今日は、部屋で休んでたのむのです? それか、四番隊の救護詰所とか」

「ええ! 会議が・・・」

乱菊は一囗笑って田番谷の背中を押した。

「会議は、私が出ときますよ。副隊長でもいいんでしょ? つて、なんですか、そのあからさまに疑ってる田!」

「・・・ほんとに出でくれるんだな?」

「 もうねえ! 」

「じゃあ・・・休もうかな・・・」

田番谷は重い足取りで四番隊救護詰所に向かった。

(だりい・・・)

「ひ・・・ひ田番谷隊長! ? 憂い熱ですよ! ?」

出できた四番隊の奴が、田番谷を見たとたん、部屋まで抱き込んだ。

田番谷の病室は、一度、建物の一番西の端にあった。

そこは、いつも使われる」との無い、隊長格が使う部屋だった。

「あひ・・・。あそここの部屋、電気がついたる。誰か寝てはるん?」

「つと・・・田番谷十番隊長が、熱をだされて・・・」

「ふーん、あ・そ」

「げほ・・・げほ・・・。誰か来てくんねえかな・・・」なんなんじ
や、林檎もまともに食えねえよ・・・」
日番谷の熱は優に三十九度を超えていて、指一本動かせないくらい
になつていた。

喉
い
て
え

ガラツ！

扉のところには、市丸ギンが立っていた。

「市枝……何でこんなところにいるんだよ……」

「ビートも

「つれないなあ……」「

卷之三

さつきから全然手をつけてないよう見える。

「食べて、もう食べる」

卷之三

ぱくつ。市丸は自分の口に林檎を含んだ。

「あつ！？」

「んぐっ！~~~~~っ！~」

「だつて食べたかつたんやろ? それに・・・

風邪で人にうつしたら治るぞ」とやし

市丸は部屋から出でて、でしゃあいた

「隊長！もう治つたんですか？」

市丸が言つていたとおり、日番谷の風邪は一日で治つてしまつた。

「ああ、そんで、会議には出でくれたんだろ?」

「あー、はい・・。で・・出ました・・。かな・・」

「かな!?」

「だつて一つ! 雑森ちゃんとかと遊んでたらわすれてたんですねー

ん!」

「いい加減仕事しやがれーーーー!」

「ゲホ・・。イヅルー。水ちよーだい」

「市丸隊長! だから言つたじゃないですか! 病人にちよつかいだしに行くなつて!」

「はーい。以後気イつけまーす・・」

この日、市丸が風邪をひいたのはいつまでもない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8684a/>

風邪

2010年10月9日14時54分発行